

グローバルな アクティブ・ラーニングの取り組み

台湾の南投市にあるNational Chi Nan University (NCNU)で、第38回APAN2014(8/11~15)がおこなわれました。APANはICTを活用した教育分野の国際学会で世界中32カ国から287名の教育関係者が集い、最先端の研究進捗、成果を共有し合う学会です。日本の各大学からも50名程度の参加がありました。

この学会の運営スタッフとして、地元の大学生、アメリカ・カナダ等の大学や高校に留学中の台湾人学生、ベトナムからの大学生、アフリカ(ガンビア)からの大学生、フィリピンからの大学生、本学からの大学生5名を含めた総勢49名が集まりました。学会準備のため学生たちは8月6日から現地入りしました。本学からの参加学生は、池澤智也(政策創造学部4年)、大谷智美(社会学部4年)、藤江悠一(理工学研究科M1)、松田昇子(政策創造学部2年)、岡本康晃(化学生命工学部2年)で、2014年8月6日から16日まで、学会運営

のスタッフとしてインターンシップをおこないました。

学生たちは国籍に関係なく、チームに分けられ、各チーム担当のスーパーバイザーと共に、学会運営に必要な様々な業務(学会看板やバナーの設置、会場の設営、学会資料・参加者名札等の準備、学会会場への誘導案内、受付、各会議室へのIT機材の設置、稼働テスト、学会会場の準備、セッション・マネジメント、コーヒープレイク会場への準備、最寄り駅やホテルと学会会場間の送迎バスの運営、レセプション会場への誘導など)に従事しました。学会が長丁場のため、各チームはシフト制で業務をこなしました。

Learning Assistant

LA活動報告



学会開催3日前におこなわれた全体打ち合わせ会議の様子

グローバルなプロジェクト・ベーストラーニングの実践でした。多様な価値観や判断基準をもつチームメンバーがコミュニケーションによりwin-winの関係をどう築けるようになるかの見せ所です。日頃LAとしてアクティブ・ラーニングを実践し、培ってきた本学の学生たちの見せ場になりました。

学生たちはみな学会の会場となったキャンパス内のゲストハウスに宿泊していたので、昼夜を問わず親交を深めることができました。学生たちの部屋からは毎晩、笑い声と楽しく会話をしている声が聞こえてきました。よく聴いてみるとそれぞれの学生が英語だけに頼ることなく、スマホの翻訳機能を使い、英語、中国語、日本語などの様々な言語を用いて意思疎通をおこなっていました。

すばらしいグローバルな学びの瞬間を垣間見ることができました。

(教育推進部 山本敏幸)



開会式



受付業務

大まかな業務内容や完了期限は学会運営の業務マニュアルで決められているものの、詳細の詰めはチームに任されているので、話し合いによる合意形成と役割分担はチームに責任が委ねられていました。まさに、

教育開発支援センターからのお知らせ

コラボレーションコモンズ“Lincom”で ラーニングcaféを開催しています！



ラーニングcaféの様子

CTLでは、昨年度からコラボレーションコモンズにて、水曜日4限の時間帯にミニ講座「ラーニングCafé」を開催しています。アカデミックスキル育成のサポートをすることを目的としているこの講座は、リーディング、ライティング、プレゼンテーション、ノートテイクなど、さまざまなテーマで展開しております。受講者は関心のあるテーマを選んで自由に参加できます。千里山キャンパスだけではなく、他キャンパスから

の参加もあります。講座では、グループワークを取り入れたり、お菓子を用意したりしており、和やかな雰囲気の中で学べることを特徴としています。

各講座を担当しているのはCTLの教員や研究員です。佐々木知彦研究員は速読、読書ノートの作り方、クリティカルリーディングなど、本を読むコツをテーマにしています。特に速読の回は参加者が多く、人気がある講座です。授業で速読に時間をかけることは難しいですが、学生のニーズは高いため需要が高いと考えられます。岩崎千晶助教はスピーチの方法、スライド作成などプレゼンテーションのコツをテーマとしております。iPadを活用して自分のスピーチを撮影し、その動画をみて、自分の改善点を探す取り組みは好評です。この他にもライティングラボのTA(大学院生)や、授業でLA(ラーニング・アシスタント)を務める学部生も「英語でのライティング基礎講座」、「グループワークに参加する方法を学ぶ」講座などを担当しており、講座を活性化しています。

今後受講者アンケートを基にラーニングCaféをさらに改善し、より良い学習支援に取り組んでいきたいと思っております。先生方、ぜひ学生さんに紹介してください。

(教育開発支援センター研究員 佐々木知彦 / 教育推進部 岩崎千晶)

ライティングラボ 活用のご案内

関西大学には、日本でも有数のライティングセンター「ライティングラボ」(以下ラボ)があります。千里山キャンパス第1学舎1号館5階、高槻キャンパスC棟1階学生サービスステーション内で学部生の文章作成に関する相談を受け付けています。来年度には、総合図書館内ラーニング・コモンズにもライティング・エリアが開設される予定です。

ラボでは、レポート、ゼミ等での発表資料、卒業論文などさまざまな文章作成を支援しています。支援方針は、「気づきを促す」ことです。大学院生のTAが学生に質問を投げかけ、答えを教えるのではなく、学生自身から答えを引き出すように心がけています。学生が自分で「考える」ようにすることがラボでの支援のポイントです。

現在、ラボは授業・ゼミとの連携を積極的に進めています。例えば、授業時間内におけるラボの見学や利用ガイダンス、教室に向かいでの出張ガイダンス、出張講座などを行ってきました。さらに、先生方が受講生にラボの利用を指示する際に、ラボもその課題内容を共有させていただくという連携方法を提案し、より効果的な支援を実施しています。学生によって抱えている課題やつまづいているところが異なるため、こうした個々の状況に応じたアドバイスは、利用した学生さんはもちろん、先生方からも好評をいただいております。

授業・ゼミとラボとの連携にご関心がありましたら、ぜひ wlabo@ml.kandai.jp までご連絡ください。先生方の授業にあった連携方法をご相談させていただきます。どうぞよろしくお申し上げます。

(教育推進部 西浦真喜子)



ライティングラボ(千里山)での個人相談の様子